



TITLE:

# 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 176

AUTHOR(S):

---

CITATION:

京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 No. 176. 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所水族館月報 1967, 176: 1-4

ISSUE DATE:

1967-05-15

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/186886>

RIGHT:

# 水族館月報

No. 176

1967年4月

## 4月の入場者数

一 般		団 体		有料合計	特別観覧
大 人	小 人	大 人	小 人		
66,988	3,798	15,979	2,010	88,775	452

  

前 年 度 比	1966	1967	増 減
入 場 者 数	91,703	89,227	-2,476

## 水族館記事

- ◎ 1日 3月末日で定年退官された市川衛教授に代って、森下正明教授が所長に就任された。
- ◎ 8日 大阪の熱帯魚店より、バタフライ・フィッシュ *Pantodon buchholzi* (全長6cm) 3個体と、アフリカンナイフ・フィッシュ *Xenomystus nigri* (12~15cm) 5個体が入槽。TF-3へ展示した。前者は常に水面直下に浮んでいるので、イトメや魚肉のような沈む餌は食わず、試みにボウフラを与えてみたところ、これを良く捕食している。
- ◎ 11日 地下貯水槽R-Cを大清掃し、本日より、G(タカアシガニ)水槽を冷水循環にきりかえた。
- ◎ 13日 C水槽のコモンハタは全長20cmに成長したので、同槽を清掃した機会に、J水槽へ移槽。
- ◎ 同日 千葉大学深山幹夫教授・東海区水産研究所竹村嘉夫・倉田博両技官は潮間帯の動物生態撮影のため来館。
- ◎ 14日 水温が上がってきたので(本日の自然海水々温 18.5 °C)、第3水槽室各槽の温水循環を止め、J・K両水槽は第3濾過槽よりの単独循環にきりかえた。
- ◎ 16日 堺浦より巨大なウミウシ(伸長時の全長42cm)が入槽。瀬戸ガ瀬でエビ網にかかったもので、外套膜の周辺部はミカドウミウシによく似ているが、背面は濃い橙色である。No.1水槽に展示中。

- ◎ 20日 生物映画社吉田六郎<sup>6</sup>来館。今月末まで滞在し、腔腸動物、後鰓類などを撮影した。
- ◎ 同日 読売テレビより4名取材に来館。昨夏当地で取材、放映して好評だったルポルタージュ「海の博物館が荒らされる」（白浜の海の自然保護問題）のフィルムを所内で鑑賞した。
- ◎ 21日 再び堺浦より、ミカドウミウシ類似の巨大種が入槽。  
今回の個体はやゝ小さく、全長34cm。
- ◎ 22日 下関水産大学校増殖科学生20名見学に来館。
- ◎ 23日 北浜の地引網より、ウミテング（全長7cm）が入る。この魚は、例年1～2個体が地引網にかかるが、いずれも入網時のスレがひどく、2,3日で死亡するのが常であった。本日入槽の個体は、体色がいちじるしく黒く、月末現在就餌は未確認であるが、元気で、№28-7水槽に展示中。
- ◎ 25日 北浜の波打際で、カラスキセワタガイ2個体を採集した。このウミウシは昼間は砂泥中にもぐる習性があり、当館周辺での採集例は極めて少ないが、この時は曇天の夕方であったため砂上に出ていたものらしい。
- ◎ 27日 搭島東水道でscuba採集中、珍らしくマツカサウオの幼魚（全長3.5cm）を採捕し、T-8水槽に収容した。
- ◎ 28日 №28水槽内装バット群の動物を整理し、展示効果がやや少ないカニ類・巻貝類に替えてウミウシ類主体の展示とした。

#### ◎ 4月の動物入手概況

##### 1. 採集作業

日 時	採 集 場 所	方 法	人 員	主な目的動物
12日午後	番所崎周辺	磯 採 集	2	ウミウシ類
14日〃	南浜防波堤附近	〃	2	タイドプールの小魚
17日〃	動物園下の磯	〃	1	エビ・カニ類
23日〃	北浜沖暗礁	scuba	1	小型磯魚
25日〃	畠 島	磯 採 集	3	潮間帯動物一般
〃 〃	加納島南側	scuba	1	ヤギ類
26日〃	南浜防波堤附近	磯 採 集	2	ウミウシ類
27日〃	搭島周辺	scuba	2	チョウチョウウオ類

上記のほかに、北浜での地引網便乗採集4回及び、外来研究者より潮間帯動物の受贈2回。

#### ◎ 主な採集動物名（☆印は1962年4月1日以降はじめての入槽動物）

無脊椎動物： ザラカイメン、アカシマモエビ、オオアカハラ、ミズヒキガニ、ミスガイ、カラスキセワタガイ、ダイダイウミウシ、マダラウミウシ、フタイロニシキウミウシ、☆チシオウミウシ、サメジマオトメウミウシ、サンゴハナガサウミウシ、ニシキヒザラガイ、クロチョウガイ、☆タカノハガイ、ハナイカ、ウデナガクモヒトデ ヒメウニ、マダラウニ、ムラサキグミモドキ、ベニボヤ。

魚 類 : マツカサウオ、ギンユゴイ、☆ゴマフエダイ、ホシギンボ、コケギンボ、ミミズハゼ、セジロハゼ、キヌバリ、カゴカキダイ、シラコダイ、ゴマチョウチョウウオ、ハナミノカサゴ、ウミテング。

## 2. 購 入

雑賀崎一本釣漁師からの入槽は例年よりやや少なく、堺浦よりエビ網の獲物を3回自動車輸送した。また、6日より江川港のエビ漕ぎ網漁が始まり、砂地の動物が多数入りだした。

### ◎ 主な購入動物名

無脊椎動物 : キサンゴ、☆フタリビワガライシ、シャコ、アカホシヤドカリ、イボアシヤドカリ、アサヒガニ、トゲナシビワガニ、キメンガニ、トラフカラッパ、ヒシガニ、ジャンメガザミ、ベニホシマンジュウガニ、ウラシマガイ、キンチャクガイ、ツキヒガイ、ミミイカ、カミナリイカ、テナガダコ。

魚 類 : サカタザメ、メクラアナゴ、アミウツボ、タカクラタツ、エビスダイ、イトウダイ、アイブリ、イトヨリダイ、タマガシラ、チカメキントキ、ミシマオコゼ、キツネダイ、キンチャクダイ、☆タキゲンロクダイ、シマフグ、アヤメカサゴ、ホウボウ。

(以下外地産) ☆バタフライフィッシュ、☆アフリカンナイフフィッシュ、フエヤッコダイ、ソメワケヤッコ、☆ヤリカタギ。

### ◎ 飼育概況

今春は例年より水温の上昇が早く、中旬より、A・E・G・Hの各槽に白点病が発生したが、G水槽をのぞき、いずれも早期治療が奏効し、駆除できた。G水槽のエビスダイ・チカメキントキは、タカアシガニと混養しているため、薬液処置(ノグボン-硫酸銅浴)ができず、第2期症状に至ったが、11日より冷水循環にきりかえ、水温を14℃に下げたので、病状は進行していない。

ウミウシ類のコレクションは、久々に(37年の天皇行幸時以来)20種を越え、また、無脊椎動物の総種類数も341種となって、これまでの記録を更新した。

4月30日現在、飼育中の動物は、総計573種 4694個体以上で、その内訳は次の通り。

このうち、観覧水槽に飼育、展示中の動物は540種 4450個体以上。

カイメン類	5種	11個体	ゴカイ類	10種	65個体	タコ類	5種	6個体
ヒドロ虫類	4種	37群	フシボ・カメノデ類	5種	108種	ウミシダ類	6種	13種
ハチクラゲ類	1種	2個体	シャコ類	2種	5種	ヒトデ類	9種	139種
ウミトサカ類	4種	12種	エビ類	18種	244種	クモヒトデ類	9種	40種
ヤギ類	10種	67種	ヤドカリ類	12種	17種	ウニ類	14種	143種
ウミエラ類	1種	7種	カニ類	51種	229種	ナマコ類	8種	33種
イソギンチャク類	11種	586種	カブトガニ類	1種	6種	ホヤ類	5種	92種
イシサンゴ類	17種	107種	ヒザラガイ類	4種	8種	軟骨魚類	10種	54種
スナギンチャク類	3種	3種	巻貝類	62種	457種	硬骨魚類	219種	1524種
ツノサンゴ類	2種	4種	ウミウシ類	24種	74種	内・淡水魚	27種	147種
ハナギンチャク類	1種	8種	二枚貝類	33種	462種	は虫類	3種	20種
			イカ類	4種	11種			

資 料

4 月 の 気 象 (午前 9 時観測)

第 1 水槽室 (水温 , 比重は 626 水槽)

	上 旬	中 旬	下 旬
晴天日数 : 10	4	0	6
室 温 ( °C )	$\frac{13.8 \sim 19.3}{16.8}$	$\frac{14.9 \sim 18.0}{16.5}$	$\frac{15.7 \sim 20.8}{17.9}$
水 温 ( °C )	$\frac{15.8 \sim 18.4}{17.0}$	$\frac{17.0 \sim 19.1}{17.8}$	$\frac{17.8 \sim 19.6}{18.5}$
比 重 ( 15 °C )	$\frac{24.42 \sim 25.54}{24.98}$	$\frac{24.63 \sim 25.15}{24.89}$	$\frac{23.77 \sim 25.46}{24.61}$

第 3 水槽室 (水温)

H 水 槽 ( °C )	$\frac{19.8 \sim 20.3}{20.1}$	$\frac{19.2 \sim 20.7}{20.2}$	$\frac{18.5 \sim 19.8}{19.3}$
T-8 水槽 ( °C )	$\frac{16.6 \sim 18.5}{17.4}$	$\frac{17.2 \sim 19.6}{18.2}$	$\frac{18.3 \sim 19.8}{18.9}$

海水取入口

水 温 ( °C )	$\frac{16.80 \sim 19.90}{17.90}$	$\frac{17.00 \sim 19.80}{18.47}$	$\frac{18.80 \sim 20.30}{19.39}$
比 重 ( 15 °C )	$\frac{24.69 \sim 25.75}{25.22}$	$\frac{24.64 \sim 25.54}{25.09}$	$\frac{23.96 \sim 25.65}{24.80}$

昭和42年5月15日(第176)

編集兼発行者 森 下 正 明

発 行 所 京都大学瀬戸臨海実験所  
和歌山県西牟婁郡白浜町  
電話(白浜)2047・3515